

毎日新聞社主催 私学公開座談会 第29回

22世紀に向けて、強くしなやかに生きるチカラを育てる私学の教育 が開催されました

10月7日(日)慶應義塾大学日吉キャンパスにて、毎日新聞社主催・日能研協賛「公開座談会」が開催されました。このイベントは、「私学にこそある価値は何か」を根幹に置き、毎年その時どきに適したテーマで開催しています。今年度は「22世紀に向けて、強くしなやかに生きるチカラを育てる私学の教育」がテーマです。

通算29回目の開催となった今回、ご登壇の学校・先生は、慶應義塾普通部 部長 荒川昭先生、灘中学校・高等学校 校長 和田孫博先生 でした。

今回は、グローバル化が話題の一つにあり、グローバル化を言い換えると各校の先生は次のように表現していました。「未知の課題に対応する力」(灘・和田先生)・「未知の世界に挑む」(慶應義塾普通部・荒川先生)です。

「未知の課題に対応する力」とは、課題に自分で気づく力、普遍的な知識や技能を持つこと、協働できる力、問題解決方法を編み出す応用力と最後までやり抜く強さです。灘の唯一の基準が「灘中生らしく」であり、自分で状況を判断し、自分の意見も持ちながら行動することが学校生活の中で実践され、批判的な目で自分を見ることで確かな判断力を身につけているようです。

「未知の世界に挑む」とは、まずは普遍的なことを学び、自ら判断、行動し自己表現ができることです。慶應義塾普通部の特徴である行事の一つ、労作展に向け「自分の力すべてで取り組む」ことが実践されています。一つの作品が出来あがるまでには、作業が進まない苦しさ、部活動や宿題で時間がないなどの葛藤も生まれるようです。その中で、自分で乗り越える力、コツコツ努力することが身につけているようです。

お話を聞く中で、両校に共通して印象に残った言葉は「最後までやり抜く力」です。世の中は、私たちの予想を超えるスピードで変化しています。変化があるということは、私たち自身が、人生の中で柔軟に変化することも同時に求められています。未知だからこそ、思うようにいかない、何度も失敗を繰り返すこともあるでしょう。しかし、そうした辛い経験も乗り越え、最後までやり抜く力は、自分を認めることにつながり、他者の存在の大切さにも気づきやすくなるのではないかと考えたからです。私学という場所が、自分の人生の基盤をつくり、不確かな未来でも楽しめる力が育まれていることを、実感できる時間でした。

当日の座談会記事は、11月7日(水)の毎日新聞本誌、毎日小学生新聞にも掲載されています。

ぜひ、次月実施の第30回公開座談会にもご参加ください。

第30回 公開座談会 日時：11月4日(日) 14:00~16:15

会場：明治大学 中野キャンパス 低層棟ホール

対象 小学1~6年生の保護者

主催 毎日新聞社

協賛 日能研

後援 日本私立中学高等学校連合会
桜美林大学総合研究機構「教育未来研究プロジェクト」

【参加校ご登壇の先生】

- 東洋英和女学院中学部 部長 石澤 友康 先生
- 武蔵高等学校中学校 校長 梶取 弘昌 先生



MAP

JR 中央線快速・総武線

「中野駅」北口より徒歩約8分

東京メトロ東西線

「中野駅」北口より徒歩約8分

<本件に関するお問合せ先>

日能研本部 TEL : 045-473-2311 / FAX : 045-475-0544 / e-mail : pr@nichinoken.co.jp

